

## 一貫1～3年生土曜講座 「動物園で考える生物多様性」

平成31年2月23日（土）、一貫1～3年生は東山動物園で「動物園で考える生物多様性」という環境プログラムを受講し、園内を散策してきました。

東山動物園では100種以上の絶滅危惧種が展示されており、個々の動物にはレッドリストカテゴリーが動物の案内とともに表示されています。そこで生徒達はあらかじめ自分が予想したレッドリストカテゴリーのレベルと実際のカテゴリーがどうなのかを確認しながら園内を散策しました。自分の予想よりはるかにレベルが高いことに驚いている様子も見られました。

また、園内で環境プログラム「動物園で考える生物多様性」を受講しました。生物に関する条約として有名なワシントン条約の始まりは、多くの生物のおかげで人間の生活が成り立っているから、その生物を人間の手で守っていかうと考えたことが始まりであると知りました。実際に蚊をヒントに痛くない注射針が作られたり、カワセミの構造から新幹線が設計されたりと、動物と私たちの生活には深い関わりがあるという説明も受けました。

さらに、レッドリストカテゴリーの話の中で、現在野生のパンダは1,800頭いるのに対して、野生のスマトラオランウータンは7,000頭であるにも係らず、絶滅危機レベルが高いのはスマトラオランウータンであることが紹介されました。その理由としてオランウータンの生息域の開発があげられ、パーム油をとるためのプランテーションの拡大が急激に進んでいること、パーム油を使った製品が自分たちの身の周りに多くあることに驚きを覚えました。

生徒からは「動物の構造から生活が豊かになっていることに驚いた」「人間の影響力の大きさを再認識した」「今日から少しでも自分の生活を改善したい」などの感想が上がりました。



環境プログラム「動物園で考える生物多様性」の様子です。

